

## 2023\_0724「ヒトヨタケの一生（動画）」日々の理科 3274号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

キノコの名称（和名）は、その形態や生態をそのまま表現したものが多く、しばしば感心させられます。例えば「タマハジキタケ」（球弾茸）は、胞子の入った袋を弾き飛ばすキノコです。「ヒトヨタケ」もその一つです。漢字では「一夜茸」と書きます。まさにその通りのキノコです。

ヒトヨタケの子実体の一生は、きっちり 24 時間です。刈り取った芝の上に朝発生します。最初は小さなマッシュルームのように、白くて丸い傘です。昼はその傘が少しずつ大きくなるだけで、茎（柄）はほとんど伸びません。しかし、夜になると茎（柄）をぐんぐん伸ばして、もとの高さの何倍にもなります。しかし翌朝になると、傘は縁から内側に巻き込まれ、黒くなって「溶けて」しまうのです。これが「一夜茸」の名にもなった特徴です。今回の動画はその一生の様子です。

この黒く溶けた菌体は胞子の塊です。普通のキノコは、傘の裏側の「ひだ」や「管孔」に胞子をつくり、それを風で飛ばして拡散させます。しかしヒトヨタケの胞子は、虫のあしに付着したり、雨で流されて拡散させるのです。（2023年7月下旬／北軽井沢）

